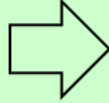


地域を代表する大規模法人経営の確立と低コスト生産の実現 ～(有)牧野農産(牧野 充記 氏) [比布町]～

経営体の概要

事業実施前：平成14年
基幹作物：水稻、小麦、大豆
いちご(露地)
経営面積：32.0ha



事業実施後：令和2年
基幹作物：水稻(主食、飼料、WCS)
小麦、大豆、そば、牧草
いちご(露地)
経営面積：86.6ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

水稻を中心に小麦、大豆、いちご狩り観光農園を組み合わせた経営を行っているが、本事業による用水の安定供給とパイプライン化により用水管理時間が大幅に軽減され、離農地を継承し地域を代表する大規模法人経営を確立した。

農作業の省力化に向け、ほ場の大区画化とともに、水稻の湛水直播栽培や、作業及び機械が共通する飼料用米やWCSを導入し、また、小麦、大豆、そば、WCS等の農作業を地区の受託組織や生産部会などに外部委託することで低コスト生産を実現した。

営農改善のポイント

①省力化

用水施設の完備により面積拡大し大区画化したことで、水管理時間は実施前と同じ。直進アシスト機能付き田植機の導入により運転と苗補給を1人対応となり大幅な労力軽減を図った。湛水直播は機械共同利用により育苗施設や育苗作業労力の省力化も図っている。小麦、大豆、そばは、農作業受託組織へ播種・収穫・乾燥調製まで作業委託し作業労力の軽減を図っている。



農作業受託組織の収穫(そば)

②作物の変化

用水の安定供給及び経営面積の大規模化により作業の効率化、省力化される飼料用米やWCSの導入と直播に取り組み、ゆめぴりか等の高品質米(低タンパク米)を作付拡大している。また、畑作物は農作業受託組織に委託している小麦、大豆、そばに加え、牧草を導入しており、いちごは観光農園として現状維持している。



ゆめぴりか収穫(7条刈)

③栽培技術の確立・向上

「大豆・小麦立毛間播種栽培」は、大豆収穫前に小麦を播種することで2毛作の栽培技術であり、乾田化したことから専用の小麦播種機で播種することで不耕起による作業軽減を図っている。



大豆・小麦立毛間播種栽培

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：北海道旭川市、上川郡鷹栖町、
同郡比布町、同郡愛別町
受益面積：3,232ha
事業期間：平成15年度～平成27年度
事業目的：用水改良
主要工事：頭首工1箇所、用水路27.1km

位置図(北海道)



ぴっぷ地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部
農業振興課 調整係
電話：011-709-2311
(内線5684)

(令和2年度調査時点)